

## グローバル・ソブリン・オープン (毎月決算型)

追加型投信／内外／債券

第228期 (決算日：2016年12月19日)  
 第229期 (決算日：2017年1月17日)  
 第230期 (決算日：2017年2月17日)  
 第231期 (決算日：2017年3月17日)  
 第232期 (決算日：2017年4月17日)  
 第233期 (決算日：2017年5月17日)

作成対象期間

(2016年11月18日～2017年5月17日)

第233期末 (2017年5月17日)	
基準価額	5,047円
純資産総額	602,696百万円
第228期～第233期	
騰落率	4.7%
分配金合計	60円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

### 受益者のみなさまへ

投資家のみなさまにはご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

グローバル・ソブリン・オープン (毎月決算型) は、このたび第233期の決算を行いました。

当ファンドは、世界主要先進国の、信用力の高いソブリン債券を実質的な主要投資対象として、国際分散投資を行い、安定的な利子収入の確保と、金利・為替見通しに基づく運用戦略により、高水準かつ安定的なインカムゲインの確保とともに信託財産の成長をはかることを目的として運用を行います。

当作成期は、金利上昇による債券価格の下落がマイナスに作用したものの、多くの主要投資通貨が対円で上昇したことなどから、基準価額 (分配金再投資ベース) は当作成期首に比べ上昇し、ベンチマークに対してアウトパフォームしました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後については、相対的に金利の高い米国などの組入比率を多めとし、投資通貨上昇による収益や利回りの獲得を目指す方針です。また、金融緩和を継続しているユーロ圏や日本をベンチマークに対して少なめの組入比率とし、保有債券の年限を長めとすることで、ポートフォリオのインカムゲイン向上をめざす方針です。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくご願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記<照会先>ホームページにアクセスし、「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、ファンドの詳細ページにおいて運用報告書 (全体版) を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書 (全体版) は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。

<照会先>

- ホームページアドレス  
<http://www.am.mufg.jp/>
- お客さま専用フリーダイヤル  
 0120-151034  
 (受付時間：営業日の午前9時～午後5時、  
 土・日・休日・12月31日～1月3日を除く)



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号

## ファンドマネージャーのコメント

おかげさまで、当ファンドは2017年5月17日に第233期の決算を行いました。ここに当作成期の運用状況をご報告申し上げます。

### ■運用のポイント

それでは、当作成期の運用で主眼に置いたポイントをご説明させていただきます。

#### ▶米国の組入比率を多めとしました

- ・先進国の中で経済環境が相対的に良好で、利上げを継続している米国の組入比率をベンチマークに対して多めとしました。一方で、金融緩和の継続が見込まれるユーロ圏や日本の組入比率は、引き続きベンチマークに対して少なめとしました。

#### ▶保有債券の年限を米国では短め、欧州・日本では長めとしました

- ・米国では、政策金利の引き上げが予想されていたことから、保有債券の年限を短めとしました。一方、金融緩和政策が続く欧州・日本では金利の上昇余地が限定的になると考え、保有債券の年限を長めとすることで、利回り改善に努めました。英国では、欧州連合（EU）離脱が決定された影響から、今後景気が減速する可能性があると考え、年限を長めとしました。

当作成期では、主要な投資先で債券の利子収入を享受したことや、主要投資通貨が対円では上昇したことなどがプラスに寄与し、基準価額は当作成期首に比べ4.7%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

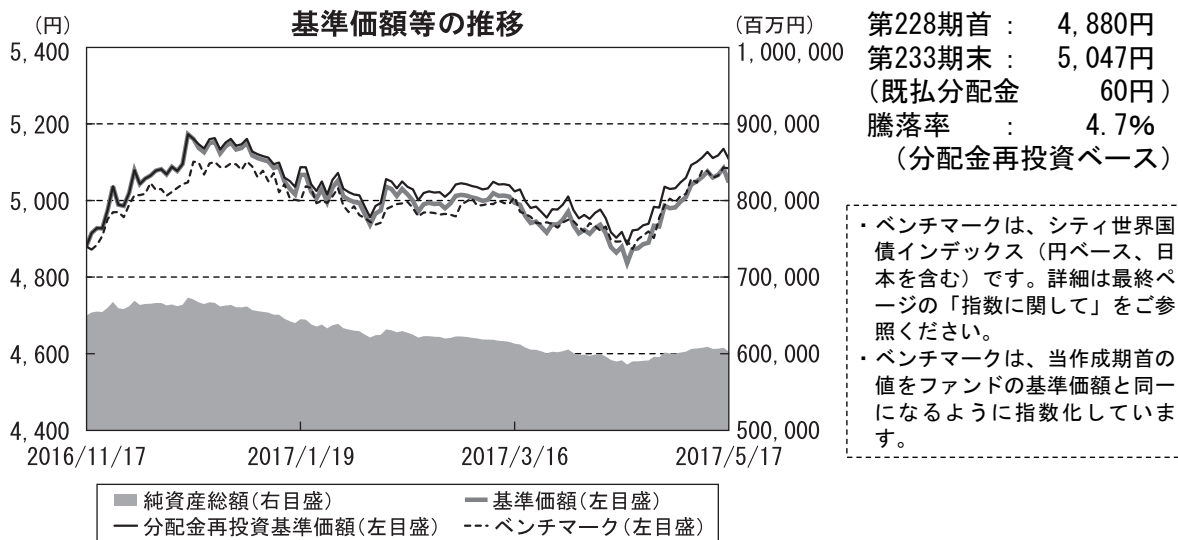
### ■投資環境見通しと今後の運用方針

- ・米国では、米連邦準備制度理事会（FRB）は政策金利の引き上げを今後も緩やかに進めていくとみています。FRBの保有債券再投資縮小の議論が今後の利上げペースに影響を与える可能性があることや、トランプ政権の政策期待が後退し始めていることなどから、長期債利回りの上昇は限定的とみています。一方、景気回復期待の高まる欧州では、金利上昇圧力が増す可能性はあるものの、欧州中央銀行（ECB）による金融緩和が継続されており、安定的に推移すると考えています。日本では、引き続き金利水準は低位で推移すると考えています。英国では、EU離脱が決定された影響などから景気は次第に減速すると考えています。
- ・通貨の観点では、米国は今後も金融政策の正常化を進めていく見込みであり、景気の相対的な強さや金融政策面での方向性の違いにより、緩やかながら米ドル高が継続すると考えています。一方、日本では、日本銀行による10年金利を低くコントロールする金融政策などにより緩和的な金融環境が続き、円は、相対的に軟調な推移が見込まれます。
- ・低金利環境が持続するなか利回りを追求する動きが継続するという見通しのもと、米国など相対的に金利の高い国の組入比率を多めとすることで、相対的に高い利回りの享受や米国の景気回復に伴う米ドル上昇などによる収益獲得をめざす方針です。また、金融緩和を継続しているユーロ圏や日本では保有債券の年限を長めとすることで、ポートフォリオのインカムゲイン向上をめざす方針です。

## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について（第228期～第233期：2016/11/18～2017/5/17）

基準価額の動き	基準価額は当作成期首に比べ4.7%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（4.2%）を0.5%上回りました。



- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因	主要投資先の通貨が円に対して上昇したことや、主要投資先の債券の利子収入などが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	主要投資先の債券価格が下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

1 万口当たりの費用明細

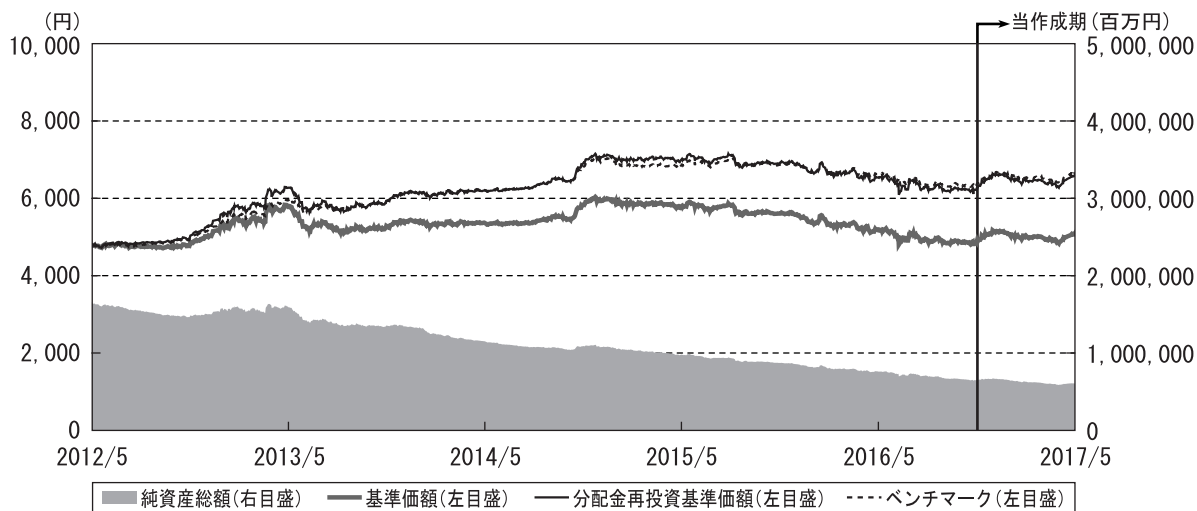
（2016年11月18日～2017年5月17日）

項 目	第228期～第233期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 34	% 0.669	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × （作成期中の日数 ÷ 年間日数）
（ 投 信 会 社 ）	(21)	(0.425)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(11)	(0.217)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 1)	(0.027)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用＝作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 0)	(0.004)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（ 監 査 費 用 ）	( 0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	34	0.673	
作成期中の平均基準価額は、5,018円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移について

（2012年5月17日～2017年5月17日）



- ・ 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・ 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- ・ 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2012年5月17日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
- ・ 海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

最近5年間の年間騰落率

	2012/5/17 期初	2013/5/17 決算日	2014/5/19 決算日	2015/5/18 決算日	2016/5/17 決算日	2017/5/17 決算日
基準価額（円）	4,831	5,777	5,343	5,805	5,174	5,047
期間分配金合計（税込み）（円）	—	420	345	240	240	140
分配金再投資基準価額騰落率	—	29.9%	-1.3%	13.4%	-6.9%	0.3%
ベンチマーク騰落率	—	23.2%	4.3%	10.7%	-3.8%	0.7%
純資産総額（百万円）	1,659,376	1,589,436	1,144,811	978,905	759,276	602,696

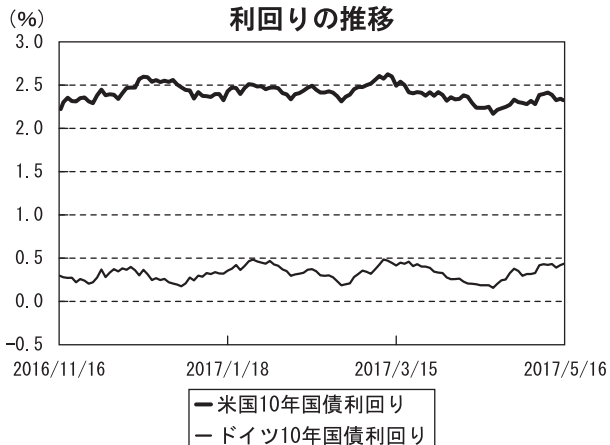
- ・ ファンド年間騰落率は、ベンチマーク年間騰落率と比較するため、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なり、また課税条件によっても異なるため、上記の騰落率は一律に受益者の収益率を示すものではない点にご留意ください。

ベンチマークは、シティ世界国債インデックス（円ベース、日本を含む）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

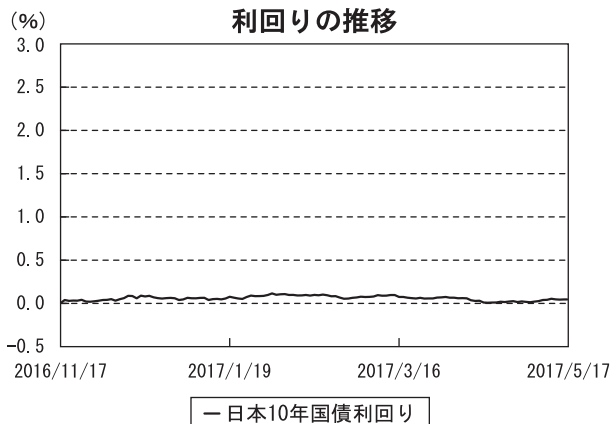
（第228期～第233期：2016/11/18～2017/5/17）

◎債券市況 米国、ドイツ、日本の10年国債利回りは上昇しました。



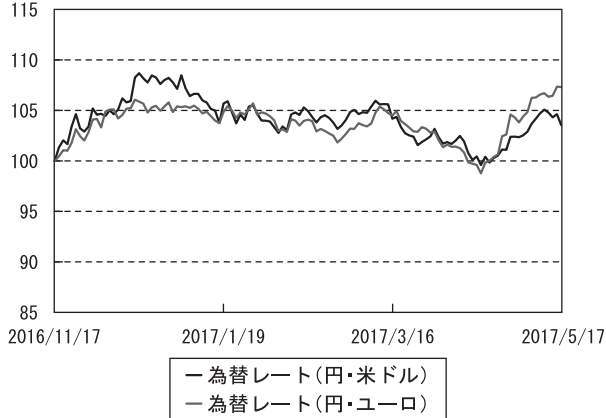
（注）現地日付ベースで記載しております。

- ・米国では、2016年11月の米大統領選挙の結果を受け、新たな経済政策への期待が高まったことや、堅調な経済指標を受け、FRBが12月、2017年3月に利上げを実施したことなどから、米国10年国債利回りは上昇しました。
- ・ユーロ圏では、世界的に金利が上昇するなか、ECBによる毎月の資産買取額が減額されたことやインフレ率が上昇したこと、フランス大統領選挙で穏健派が勝利したことなどから、ドイツ10年国債利回りは上昇しました。
- ・日本では、世界的に金利が上昇するなか、国内景気の回復を受けて日本銀行の金融緩和政策に対する不透明感が高まったことなどを背景に、日本10年国債利回りは上昇しました。



◎為替市況 米ドルやユーロは円に対して上昇しました。

為替市況の推移  
(当作成期首を100として指数化)



- ・米ドルは、2016年11月の米大統領選挙の結果を受け、新たな経済政策に対する期待から、円に対して上昇しました。その後、12月と2017年3月にはFRBが利上げを行い、米ドルは円に対して底堅く推移しました。
- ・ユーロは、ユーロ圏の経済指標が底堅く推移したことなどから、円に対して上昇しました。その後、フランスなどの政治リスクが懸念され下落する局面もありましたが、フランス大統領選挙で穏健派が勝利する結果となり、単一通貨ユーロの将来に対する安心感からユーロは円に対して上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

＜グローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）＞

- ・グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ちました。

＜グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド＞

- ・基準価額は当作成期首に比べて5.3%の上昇となりました。
- ・世界主要先進国の国債、政府機関債等に加えカナダ、オーストラリアなどの州政府債を主要投資対象とし、信用格付が高い（原則としてA格以上）債券を高位に組み入れました。

◎通貨戦略（国別配分） 米国の組入比率を多めとしました。

- ・先進国の中で経済環境が相対的に良好で、利上げを継続している米国の組入比率をベンチマークに対して多めとしました。一方で、金融緩和の継続が見込まれるユーロ圏や日本の組入比率は、引き続きベンチマークに対して少なめとしました。

◎債券戦略 保有債券の年限を米国では短め、欧州・日本では長めとしました。

- ・米国では、政策金利の引き上げが予想されていたことから、保有債券の年限を短めとしました。一方、金融緩和政策が続く欧州・日本では金利の上昇余地が限定的になると考え、保有債券の年限を長めとすることで、利回り改善に努めました。英国では、EU離脱が決定された影響から、今後景気が減速する可能性があると考え、年限を長めとしました。
- ・前記のような運用の結果、主要投資先の債券価格が下落したことはマイナスに作用したものの、主要投資先の通貨が円に対して上昇したことなどから、基準価額の上昇に寄与しました。

（ご参考）

ポートフォリオ状況

作成期首（2016年11月17日）

	マザーファンド	ベンチマーク
平均終利	1.42%	—
平均直利	3.66%	—
デュレーション	7.8	7.7

作成期末（2017年5月17日）

	マザーファンド	ベンチマーク
平均終利	1.42%	—
平均直利	3.65%	—
デュレーション	7.7	7.6



- ・平均終利（複利最終利回り）とは、償還日までの利子とその再投資収益および償還差損益も考慮した利回り（年率）をいいます。
- ・平均直利（直接利回り）とは、利子収入部分にのみ着目した利回り。債券価格に対する利子の割合（年率）をいいます。

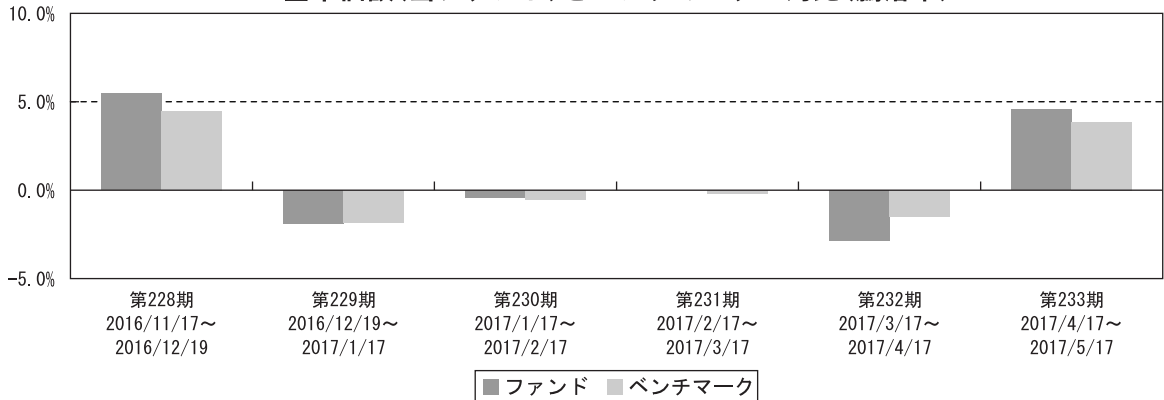
用語解説 \*デュレーションとは：

金利が変動したときの債券価格の変動性を示すもので、債券に投資した場合の平均投資回収年限を表す指標でもあります。例えば、デュレーションの値が「5」の債券は、金利が1%上昇（低下）すると債券価格がおおよそ5%下落（上昇）します。（他の価格変動要因がないと仮定した場合の例です。）  
 一般に、満期までの残存期間が長い債券や利率が低い債券ほど、デュレーションの値が大きく、金利変動に対する債券価格の変動が大きくなる傾向があります。



当該投資信託のベンチマークとの差異について（第228期～第233期：2016/11/18～2017/5/17）

基準価額(当ファンド)とベンチマークの対比(騰落率)



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

#### <グローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）>

- ・基準価額は当作成期首に比べ、4.7%（分配金再投資ベース）の上昇となり、ベンチマーク（騰落率4.2%）との乖離は0.5%程度となりました。

#### <グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド>

- ・基準価額は当作成期首に比べ、5.3%の上昇となり、ベンチマーク（騰落率4.2%）との乖離は1.1%程度となりました。
- ・前記の結果、円に対して上昇した米ドルをベンチマークに対して多めにしていたことなどがプラスに寄与し、ベンチマークに対してアウトパフォームしました。

### 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準・市況動向等を勘案し、利子・配当収入を中心に分配金額を決定します。この結果、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第228期	第229期	第230期	第231期	第232期	第233期
	2016年11月18日～ 2016年12月19日	2016年12月20日～ 2017年1月17日	2017年1月18日～ 2017年2月17日	2017年2月18日～ 2017年3月17日	2017年3月18日～ 2017年4月17日	2017年4月18日～ 2017年5月17日
当期分配金	10	10	10	10	10	10
（対基準価額比率）	0.194%	0.198%	0.200%	0.200%	0.206%	0.198%
当期の収益	10	9	9	9	10	10
当期の収益以外	—	0	0	0	—	—
翌期繰越分配対象額	145	145	145	145	145	151

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### <グローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）>

#### ◎今後の運用方針

- 引き続き、グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち運用を行っていく方針です。

### <グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド>

#### ◎運用環境の見通し

- 米国では、FRBは政策金利の引き上げを今後も緩やかに進めていくとみています。FRBの保有債券再投資縮小の議論が今後の利上げペースに影響を与える可能性があることや、トランプ政権の政策期待が後退し始めていることなどから、長期債利回りの上昇は限定的とみています。一方、景気回復期待の高まる欧州では、金利上昇圧力が増す可能性はあるものの、ECBによる金融緩和が継続されており、安定的に推移すると考えています。日本では、引き続き金利水準は低位で推移すると考えています。英国では、EU離脱が決定された影響などから景気は次第に減速すると考えています。
- 通貨の観点では、米国は今後も金融政策の正常化を進めていく見込みであり、景気の相対的な強さや金融政策面での方向性の違いにより、緩やかながら米ドル高が継続すると考えています。一方、日本では、日本銀行による10年金利を低くコントロールする金融政策などにより緩和的な金融環境が続き、円は、相対的に軟調な推移が見込まれます。

#### ◎今後の運用方針

- 通貨戦略（国別配分）では、低金利環境が持続するなか利回りを追求する動きが継続するという見通しのもと、米国など相対的に金利の高い国の組入比率を多めとすることで、相対的に高い利回り享受や米国の景気回復に伴う米ドル上昇などによる収益獲得をめざす方針です。
- 債券戦略では、金融緩和を継続しているユーロ圏や日本では保有債券の年限を長めとすることで、ポートフォリオのインカムゲイン向上をめざす方針です。
- 為替市場の急激な変動に応じ、一時的に対円で為替ヘッジを行う場合があります。

## お知らせ

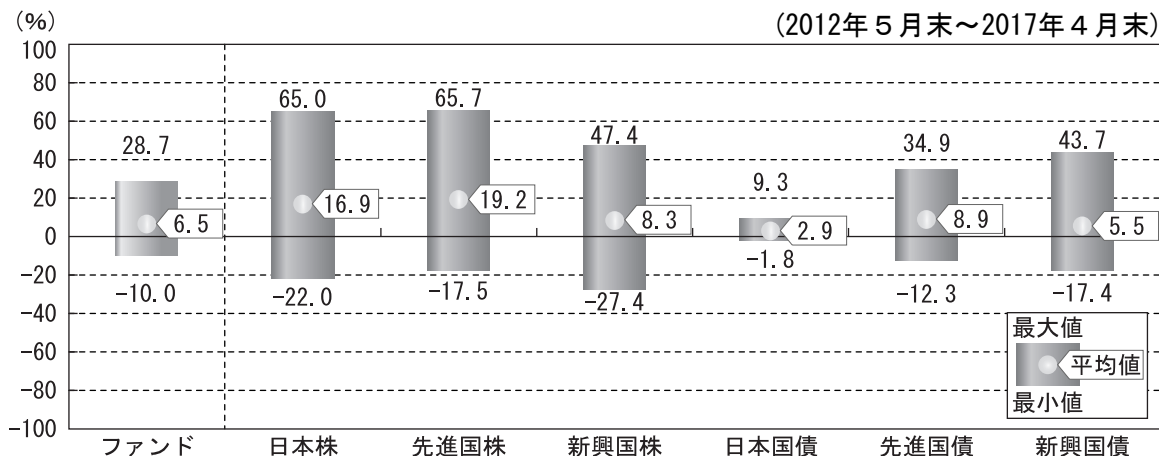
2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<http://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限（1997年12月18日設定）	
運用方針	ファミリーファンド方式により、高水準かつ安定的なインカムゲインの確保とともに信託財産の成長をはかることを目的として運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券
	グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド	世界主要先進国の国債、政府機関債等（A格以上のもの）
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界主要先進国の、信用力の高いソブリン債券を主要投資対象とし、国際分散投資を行います。</li> <li>・安定的な利子収入の確保と、金利・為替見通しに基づく運用戦略により、収益の獲得を目指します。</li> </ul>	
分配方針	毎月17日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準・市況動向等を勘案して、利子・配当収入を中心に分配金額を決定します。	

## ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2012年5月から2017年4月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

### ○各資産クラスの指数

- 日 本 株 : TOPIX (配当込み)
- 先 進 国 株 : MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)
- 新 興 国 株 : MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
- 日 本 国 債 : NOMURA-BPI (国債)
- 先 進 国 債 : シティ世界国債インデックス (除く日本)
- 新 興 国 債 : JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 当該投資信託のデータ

### 当該投資信託の組入資産の内容

（2017年5月17日現在）

#### 組入ファンド

（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	第233期末 2017年5月17日
グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド	99.7%

・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

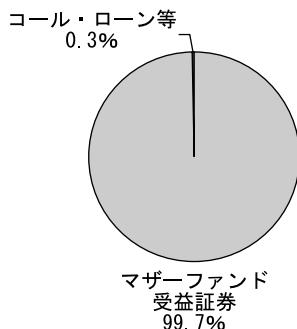
#### 純資産等

項目	第228期末 2016年12月19日	第229期末 2017年1月17日	第230期末 2017年2月17日	第231期末 2017年3月17日	第232期末 2017年4月17日	第233期末 2017年5月17日
純資産総額	666,871,192,906円	642,424,281,491円	624,743,413,075円	611,978,758,910円	585,732,404,704円	602,696,428,438円
受益権口数	1,298,220,728,590口	1,276,999,847,626口	1,249,641,016,033口	1,226,565,774,223口	1,211,148,340,228口	1,194,285,840,704口
1万口当たり基準価額	5,137円	5,031円	4,999円	4,989円	4,836円	5,047円

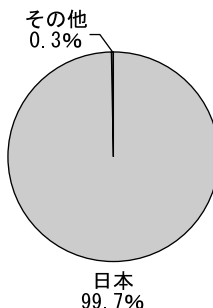
・当作成期間中（第228期～第233期）において  
追加設定元本は 5,202,951,817円  
同解約元本は 142,361,092,463円 です。

#### 種別構成等

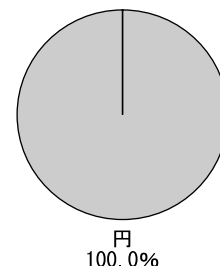
##### 【資産別配分】



##### 【国別配分】



##### 【通貨別配分】



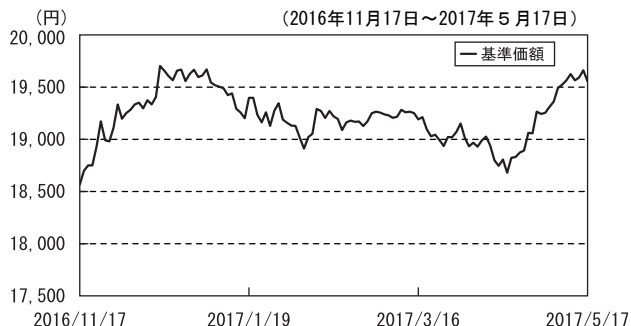
・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。  
・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

組入上位ファンドの概要

（2017年5月17日現在）

グローバル・ソブリン・オープン マザーファンド

基準価額の推移



組入上位10銘柄

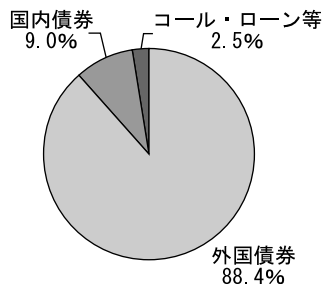
（組入銘柄数：107銘柄）

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	8.75 T-BOND 200815	債券	アメリカ	国債	5.7%
2	5.4 IRISH GOVT 250313	債券	アイルランド	国債	4.2%
3	3.625 T-BOND 440215	債券	アメリカ	国債	3.8%
4	5.5 BEL GOVT 280328	債券	ベルギー	国債	3.3%
5	4.75 O. A. T 350425	債券	フランス	国債	2.9%
6	8.125 T-BOND 190815	債券	アメリカ	国債	2.8%
7	8.75 T-BOND 200515	債券	アメリカ	国債	2.7%
8	8.875 T-BOND 190215	債券	アメリカ	国債	2.7%
9	第153回利付国債（20年）	債券	日本	国債	2.6%
10	3.4 IRISH GOVT 240318	債券	アイルランド	国債	2.3%

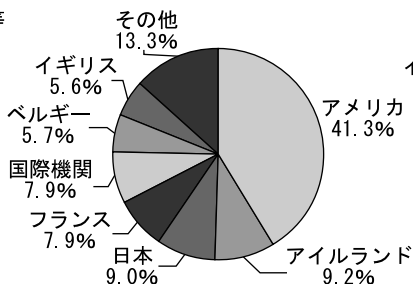
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等

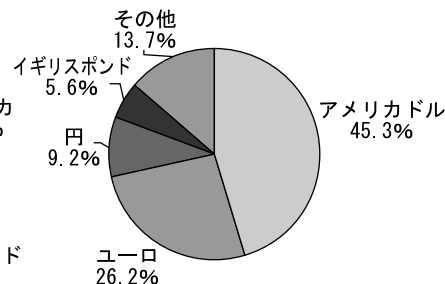
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含まます。
- ・通貨別配分のグラフの値は為替ヘッジ考慮後の割合です。

1万口当たりの費用明細

（2016年11月18日～2017年5月17日）

項目	第165期～第170期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用	1	0.004
（保管費用）	(1)	(0.004)
合計	1	0.004

作成期中の平均基準価額は、19,248円です。

（注）1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目の概要については、3ページの注記をご参照ください。

（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 指数に関して

○ファンドのベンチマークである『シティ世界国債インデックス（円ベース、日本を含む）』について

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスで、1984年12月末を100とする世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額比率で加重平均し、指数化したものです。

○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

### TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

### MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

### NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPIとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（国債）はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI（国債）は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

### シティ世界国債インデックス（除く日本）

シティ世界国債インデックス（除く日本）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

### JPMオルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMオルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信